

文法問題を形と文脈から解く

図解と確認 | 学校文法の考え方

このテストはA～Dを合わせて32問100点の1セットです。目安は50分。用語を覚えるだけでなく、文中の形や働きを根拠に判断します。

1 対象を確かめる

一語か、文節か、文全体か。

→

2 形とつながりを見る

前後の語・活用・修飾を確認。

→

3 文脈で確かめる

意味や人物関係と合うか。

品詞と文の成分

品詞は単語の種類。文の成分は文中の働き。「ゆっくり」は副詞であり、「ゆっくり走る」では修飾語として働く。二つを混同しない。

動詞と形容詞・形容動詞

活用の種類と活用形は別の問い。「曲がれば」の「曲がれ」は五段活用の仮定形。「静かな」は一語の形容動詞で、名詞を修飾する連体形。

助詞・助動詞と識別

助詞は活用しない付属語、助動詞は活用する付属語。同じ形でも働きは異なる。「ない」「れる・られる」「だ」「そうだ」は、接続と文脈を合わせて見る。

敬語と人物関係

動作をする人、動作の向かう相手、会話の聞き手を分ける。先生の動作なら尊敬語、自分側の動作をへりくだって相手を立てるなら謙譲語を考える。

説明・書換えの答え方

理由は「何に続くか」「誰が動作するか」など、判断の根拠まで書く。書換えでは、元の意味や時制を保ち、指定された部分だけを直す。

採点と解き直し

A16点・B24点・C32点・D28点。全体で100点です。解答の部分点で採点し、誤りを「用語」「形」「文脈」「説明」に分けて、関連する総復習プリントへ戻りましょう。

学習の目安 基本事項で迷ったらA・Bに戻る。正解しても根拠を説明できなければC・Dを解き直す。得点は復習箇所を見つけるために使い、志望校の可否判定には使いません。